

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	文学部
大項目	7 国際交流
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流(国内外における教育研究交流)についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流(国内外における教育研究交流)を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況(院)

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 各種留学生の受け入れ数を拡大する	→文学部における各種留学生受入者数	B	B	B	B	B
2. 交換留学による海外派遣学生数を拡大する	→文学部から派遣する正規交換留学生数	A	B	B	A	B
3. 学部の全専任教員数に対する海外派遣者数を全教員比半数以上、また客員教員を安定的に受け入れる(年間5～7名程度)	→年度別海外研究者受入数、専任教員海外派遣者数	A	A	A	B	B
4. 外国人(ネイティブ)の専任教員数を増加させる(現行2名)	→文学部専任教員における外国人(ネイティブ)数	B	B	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 各種入試における外国人留学生入学試験を実施するとともに、希望する留学生には日本人学生パートナーを付けて学業面・生活面でのサポートを充実させる方策を採っている。また、2013年度からは文学部留学生の会を実施し、留学生が学生生活になじめる環境の充実を図っている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年度の外国人留学生数は2012年度より2名増加している。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2013年度に始めた文学部留学生の会など、在籍している留学生へのサポートを充実させることで、本学の評判を高めて次年度以降のさらなる発展を望みたい。	☆
		その他	☆

目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2014年度入試からグローバル入学試験に参加して海外志向の高い学生を集める努力をしている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 本学から海外大学への長期留学生は2012年度から2013年度にかけて9名減り、2011年度の水準に戻った。一方、短期留学生は2012年度から2013年度にかけて6名減ったが、2011年度よりは10名多く、増えた水準を何とか維持している。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 文学部独自でドイツ語中期留学制度を検討するなど、よりさまざまな形で本学学生が海外に出ていく機会を増やす努力をしている。	☆
		その他	
			☆
目標3	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 海外研究者の本学招聘を奨励しており、また本学教員の海外派遣に関しても奨励している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 海外からの受け入れ教員数は2012年度から2013年度にかけて1名増加した。他方、本学教員の海外派遣は2012年度から2013年度にかけて5名減少したが2011年度を上回る水準は維持しており、全教員数の半数を超えるという目標も達成している。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か より海外大学との教員同士の交流が盛んになるように努力している。	☆
		その他	
			☆
目標4	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2011年度に新たに外国人教員を採用し、教員の国際化を図っている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2011年度から外国人教員は1名増加し、英語・フランス語・ドイツ語のネイティブ・スピーカーを抱えている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か さらに外国人教員を増やす可能性も含めて、採用人事審査を適正に行う。	☆
		その他	
			☆
備考			☆

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【文学部】			単位	2009	2010	2011	2012	2013	2014	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	—	—	—	—	—	—	5/1現在	
指標2	国際交流協定締結国数		国	—	—	—	—	—	—	5/1現在	
指標3	海外からの受け入れ学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—	・5/1現在(学校基本調査) ・正規とは学位取得目的 ・累計数 ・交換は正規以外とする。 外国人留学生÷在籍学生数	
		外国人留学生	正規	人	43	48	49	49	51		50
			交換	人	—	—	—	—	—		—
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	1.3	1.4	1.5	1.5	1.6		1.6
			交換	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0
その他 (セミナー等による受け入れ)	人	—	—	—	—	—	—	—			
指標4	海外への派遣学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—	累計数	
		人数	長期	人	50	47	55	63	54	—	・累計数 ・1学期以上を「長期」
			短期	人	100	78	90	106	100	—	・累計数 ・1学期未満を「短期」
		在籍学生比率	長期	%	1.5	1.4	1.6	1.9	1.7	—	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
			短期	%	2.9	2.3	2.7	3.2	3.1	—	
指標5	海外からの受け入れ教員数	長期	人	3	2	0	0	0	—	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	3	5	4	2	3	—	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標6	海外への派遣教員数	長期	人	0	1	1	0	0	—	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	45	61	50	57	52	—	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	0	2	0	0	1	—	・累計数 ・春・秋の合計	
指標8	外国人教員比率		%	2.8	2.8	4.2	4.2	4.2	4.2	・5/1現在	

※指標3「海外からの学生の受け入れ」の「外国人留学生」(正規)は2009年度までは1年間の累計数。2010年度以降は当該年度5月1日現在の数字。(学校基本調査に合わせた。)

※指標7「国連ボランティア(UNV)の参加者数」は2013年度から国際社会貢献活動参加者を含む。また国連ボランティアは2013年度より国連ユースボランティアとなった。